

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を意識するよう、事務所に掲示している。	8項目にわたる法人の理念がスタッフルームに掲示され、また、職員全員が常に所持している手帳にも記されており互いに理解を深めている。それに基づいたホーム独自の方針「利用者様のこだわりを実現でき、認知症であっても生涯役割を持ち続ける生活を支援する」を十分理解し、職員は日々のケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	普段の散歩や買い物などに行った際に挨拶などしたり、行事に参加して交流の場を設けている。	法人として自治会費を納めている。隣地にある複合施設で開催する創立祭、文化祭等に地域の方が多数来訪したり、地区の納涼祭には区長からの提案で地区内の小学生が利用者を迎えに来て交流を深めている。保育園からはハロウィンに合わせ、また、小学生は傘踊りで訪れ、更に、中学校の文化祭にも招待されている。音楽療法、傾聴、マジック等のボランティアの訪問も多くある。近隣の方からは畑の作物や花の差し入れがあり触れ合う機会が多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度はない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に4回開催をしている。参加者からの意見を参考にし、サービス向上に活かせるよう取り組みを行っている。	会議は年4回(うち2回は複合施設と合同)開催し、地域住民代表、区長、副区長、広域連合職員、町役場職員、介護相談員等が出席している。利用者の現状や行事などの報告をし、意見交換している。法人として実施した満足度調査結果から食事に関する意見を取り上げ、出席メンバーからの提案で改善に繋げるなど、サービスの向上に役立っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月に1回の役場への訪問にて担当者と情報交換を行い、地域のニーズの把握に努めている。	定期的に役場に出向いて情報交換を行っている。介護認定の更新はホームで行い、町からの調査員へ暮らしぶりを伝え連携を深めている。介護相談員が月1回2名で訪問され、何かあれば意見を伺うようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する委員会を開催している。また必須の研修として全職員に必要な研修を受けさせている。	法人として拘束に関する研修や会議を実施している。日中、玄関は開錠されており、安全確保のためにチャイムが鳴るようになっている。外出傾向の強い方には一緒に散歩に出かけたり、話しをするなどの工夫をして気分転換を図っている。	

グループホームグレイスフル下諏訪

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部からの研修案内について職員へ情報提供している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に契約・解約等の内容を説明し、ご家族の意向を伺い、ご理解いただけるように努めている。文書にて提示している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様のつづやきとして、利用者様の小さな一言も汲み取り、希望や訴えなど、毎月挙げ会議等で対応策を検討し、実施している。	ほとんどの利用者が自分の意見を伝えられる。発言が少ない方には職員が声掛けして関わりながら思いを引き出し受け止めている。家族の来訪は月3回から3ヶ月に1回程度で、その時に意見や要望を伺うようにしている。家族あてに、月1回、ホームだより「ほのほの便り」と個別の様子をお知らせしている。何かある時は小まめに電話連絡をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の自主会議や申し送り時等に職員からの意見や提案を募る機会を設け、検討している。又、チャレンジシートや面接時に意見を言う場を設けている。	月1回の職員会議と毎日15時からの申し送り時に打ち合わせや意見交換をしている。出席できない職員はパソコンの伝言板にて確認している。書き込みは自由で確認サイン欄もある。職員は1日1回は伝言板を見て情報を共有し、出された意見は運営に活かしている。人事考課制度では上司との面談があり、スキルアップに努めている。意見を出しにくい職員にはハウスマネージャーが個別に話しかけるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標を持って、働けるように各ツールを使用したり、個々に面接を行い、各職員の目標を共有しあい、意欲向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験や習熟度に合わせた学びの機会を持つよう法人内外の研修の情報収集をし、研修参加の促進を行っている。		

グループホームグレイスフル下諏訪

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎年定期的に同法人内の事業所間の交換研修を行っている。又、法人全体の職員を対象とした研修の実施により、交流の場を設けている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前にご本人、ご家族と面接をし、不安な事や要望があれば確認を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同様。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在のサービス状況を確認しながら、他のサービス機関の情報も必要に応じて提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に家事や掃除を行い、食卓にて同じ料理を味わうなどして会話の機会を多く持つように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から情報共有に努め、ご家族来所時には利用者様と過ごせる場所の確保と雰囲気作りに配慮している。ご家族にも外食等の機会を設けていただき、一緒に過ごす時間をもち続けていただくようご協力いただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の利用者様が多く入所されており、昔勤めていた会社の友人や兄弟、親戚の方が、日々面会に来られている。又、近隣店舗への買い物や馴染みの場所へのドライブ等行っている。	利用者の昔からの友人や親戚の来訪があり、顔を見ると「久しぶり！」と言って迎えている。手紙の返事を書かれる利用者もいる。食材の買い出しに近くの馴染みのスーパーに出かけたり、馴染みの美容院に行かれる方もいる。利用者同士の良好なつながりもあり、誘い合って散歩に出かける様子が見られるという。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士がお互いに声を掛け合い、助け合える環境を整えている。		

グループホームグレイスフル下諏訪

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様が退居後も必要に応じて相談援助や面会を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の思いや希望をつぶやきとして汲み取れるよう努力し、希望を個別外出として計画を立てたりご家族からに協力をさせていただいたりしながら、実施できるよう努めている。	ほとんどの利用者が自身の思いを伝えられる。個々のつぶやきをパソコン伝言板に記入して情報を共有し、利用者の意向について職員で話し合い、また、家族に相談して可能な限り思いに沿うようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に作成しているフェイスシートを活用し、これまでの生活スタイルを大切にしながらケアにあたっていくよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりの過ごし方の把握を行い、ケアプランや伝言板にて情報共有を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の希望を取り入れた介護計画を作成している。利用者様の状態変化に応じて計画書の見直しを行っている。	居室担当制で職員1人が1~2名の利用者を担当している。個人スケジュールを立て、意見を集約してから年2回介護計画の見直しを行い、年1回は家族とのカンファレンスも実施している。状態に変化が見られた場合は随時、見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	パソコン入力での介護記録(ポイントケア)にて、情報共有を図っている。毎日、ポイントケアにて介護計画書の実施の有無について評価をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人施設が近くにあるため、交流を図ったり行事に参加している。		

グループホームグレイスフル下諏訪

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域社会の一員として、地区の行事に参加して地域住民との交流を図り、充実した生活が送れるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診が必要な際は、ご家族に連絡し希望の病院をお聞きして対応している。	ホーム利用前からのかかりつけ医がほとんどであるが、家族が遠方の場合などは協力病院の往診を利用している。受診の付き添いは家族が行い、その時の情報は口頭で伝えられ職員は共有している。薬は居室担当が管理している。訪問看護ステーションと契約し毎火曜日に看護師が来訪し、利用者の健康チェックと相談が行われ、24時間対応も可能となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的訪問時はもちろん、変化があった際はその都度報告し、必要に応じて指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、病院関係者との連絡をまめに取り合い、ご本人の状態把握と今後の方針・予定等を聞き、必要に応じて動くように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様の状態やADL(日常生活動作)に変化が見られた際には、ご家族と今後の方針を話し合い、当事業所で出来る範囲のことを説明している。また、主治医やケアマネージャー等にも相談を持ちかけ、多方面から支援できるように取り組んでいる。	ホーム利用前に法人としての指針を説明している。体調の変化に合わせて家族、主治医、職員と話し合い、複合施設との連携を図ったり医療機関に移れるように段階的な支援をしている。職員の勉強会も定期的に行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署員による定期的な救急救命法を受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を実施している。災害時は地域との協力体制を整えている。	年2回防災訓練を実施している。そのうち1回は火災を想定して初期消火、避難誘導、緊急連絡網訓練を実施している。当ホームの地域は土砂災害の警戒区域に入っており、それを想定した訓練も必要となっている。近隣住民との協力体制は整えられているので、今後、訓練への参加を働きかけたいという。食料等の備蓄は隣地の複合施設に用意されている。	

グループホームグレイスフル下諏訪

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	同法人内の事業所間で、情報を共有しながら声かけや対応を検討、実施をしている。	法人内で人権擁護の研修があり、利用者の尊厳について理解を深めている。自分がされて不快なことはさげ、利用者の目線に合わせた対応を心がけている。基本的には苗字に「さん」付けか、希望の呼び方で呼び掛けている。居室に入る時は必ずノックをして声をかけながら入るようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人からの意見等は職員で情報共有を行い、希望に添えるように職員・ご家族と協力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりの過ごし方を把握し、その方の過ごし方に沿った支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みなどをお聞きし、着たい服などを選んでいただくような支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る内容を把握し、職員と一緒に食事作り等に参加していただいている。	全員が箸を使って自力で摂取している。食形態は常食であるが、その日の嚥下状態に応じてキザミにする時もある。法人の献立表を基本に職員と利用者で作っている。食材は毎日、交代で利用者と職員が近くのスーパーに買い出しに行き食品選びをしに行く。調理のお手伝いは各自の持てる力に合わせて行っている。食後は各自食器を流し台に持っていき、順番を待ちながらほぼ全員が洗い物をしている。近所からは野菜、家族からは果物の差し入れがあり、ホームではプランターでミニトマトなどを栽培して食材にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を記録で確認し、1人ひとりに合った量や水分摂取の促しなど行っている。		

グループホームグレイスフル下諏訪

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。義歯の方は毎晩義歯洗浄を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的にアセスメントを行い、それぞれに合った排泄パターンを調べ、自立支援を行っている。	半数近くの方は布パンツ使用で、後の方はリハビリパンツで過ごされ、パット使用は若干名となっている。利用者の排泄パターンや体調に合わせて自分で行かれる方はトイレに行き、適時、声かけや誘導をするなど、配慮をしながら支援している。居室近くにトイレが設置されているので自分が使用する所として習慣づいている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便通により食材を使用したり、アドバイスを取り入れたりしている。散歩や体操を行い、運動も取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午後がメインになるが、ご本人と相談し、入りたいタイミングで入浴していただいている。	週5日程度、利用者の気分に合わせて午後の時間帯に入浴している。温泉が引かれているので、それぞれに楽しむことができる。ほとんどの利用者が自立で、手の届かない部分は職員が手伝っている。浴槽に入れない方はシャワー浴で対応し、入浴を拒む時は無理強いせずにタイミングをみて声かけしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室で休んでいただけるよう環境を整えている。職員からも声かけも行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎回受診後に薬の変更等がないかご家族に確認をし、その後全職員に情報共有できるように伝言板を使用し、申し送りしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族やご本人から好み等を聞き、情報共有を行い、1人ひとりに合った楽しみごとなどを提供できるようにしている。		

グループホームグレイスフル下諏訪

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩は毎日行い、時折ドライブ等の機会も設けている。ご家族にも協力していただき、外出等の機会も作っている。	外出時は半数以上が自立歩行でき、あとの方は転倒予防のために杖歩行している。ほとんど毎日、隣の津島神社等へ散歩に出かけ、食材の買い出しも順番で出かけている。近くに公園ができ、ベンチ・トイレ・水飲み場等が設置されたので「利用してください」と区長からも声がかかり出かけている。また、散歩途中で近隣の方とも行き会い気軽にあいさつを交わしている。ドライブを兼ねて花見にも出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在金銭を持っている方はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話などは希望があれば対応を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カレンダー、時計を設置し日付や時間がわかるようにしている。季節の花などを飾り、季節感を味わっていただけるようにしている。	築19年経つが掃除や手入れが行き届き、フロアの床の色や使いなじんだテーブルも落ち着いた雰囲気です。自分が住んでいる家という感じを受ける。中庭があり回廊式の居室の配置でトイレもそれぞれの居室のすぐ近くにある。フロアにはカレンダー、時計が複数掛けられていて、どこからでもわかりやすく確認できるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの設置をしたり、気の合う方と席を配置したりと工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族やご本人と相談し、過ごしやすい環境づくりを皆で考え工夫している。	居室には大きな可動式の収納戸棚があり、持ち物が整理整頓されている。エアコンによる温度管理がされている。自宅で使い慣れたベッドやタンス、テレビなどが配置され、記念の写真も飾られており、居心地のよく過ごせるように配慮がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの出来る内容を計画書に作成し、実行している。		